

だい ち 外
 大地はささばはづると
 おおぞら もの
 も虚空をつなぐ者がありと
 しお 満 干 こと
 も・潮のみちひぬ事はあ
 ひ にし い
 りとも日は西より出づると
 ほ けきょう ぎょうじゃ いの
 も・法華経の行者の祈りの
 叶 こと
 かなはぬ事はあるべからず

(御書 1351 ~ 1352 ページ)

通解

大地をさして外れることがあっても、大空をつなぐ者があっても、潮の満ち干がなくなっても、太陽が西から昇るようなことがあっても、法華経の行者の祈りの叶わないことは、絶対にない。

 祈りによって「一念」を^{へんかく}変革

よくわかる解説

本抄は文永9年(1272年)に佐渡の地で著され、弟子の最蓮房に与えられたとされてきましたが、詳細は定かではありません。

当時、日本では天災が続き、蒙古襲来の危機などもあり、為政者たちはそれを逃れようと、諸宗に祈禱を依頼していました。本抄では、その誤りを明らかにし、法華経によってこそ祈りがかなうことを示されています。

御文では、「大地をさして外れる」ことや、「太陽が西から昇る」ことなど、現実にはあり得ない現象が起こったとしても、「法華経の行者」の祈りがかなわないことはないのだと教えられています。

なぜ祈りはかなうのか。それは、真剣に唱題する中で、自身の心を変革することができるからです。

ある未来部の先輩は、友達をつくるのが苦手で、心から話し合える親友がいませんでした。別の先輩にその

ことを相談すると、「友達とうまく付き合えないけれど親友が欲しいです」と、ありのままに祈ろうよ!と励まされたそうです。

その言葉通りに題目をあげていると、それまで自分から親友をつくろうと思っていなかったことに気がきました。身の回りの友人こそが一番の宝である——そう思い、勇気を出して、友達に将来の夢や自分の考えを話すうちに、心から親友と呼べる友達をつくることができたのです。

自分の心が変わることで行動が変わり、現実の変革が起こっていきます。その一歩を踏み出す鍵が、唱題の実践にあるのです。

池田先生はおっしゃっています。「深き祈りによって、『一念』を変革していくのです。目に見えない一念の革命が、現実に自身を変え、環境をも変えていきます」

さあ、「祈りは必ず叶う」と確信をもって唱題に励み、夢をかなえるステップを踏み出していきましょう!